

VIII. マスコミ報道・提言・印象記

豚舎で伝染病発生

子豚中心に380頭が死ぬ

名護市

トキソプラズマ症 など合併症の疑い

北部地区での豚大量死

子豚を中心二十日までに三百七十六頭もの豚が死んだ原因を調べている県農水部畜産

北部地区の三カ所の豚舎で通して南部から導入した子豚一百七十六頭もの豚が死んだ原因を調べている県農水部畜産課はトキソプラズマ症、パステラ菌の合併症の疑いが最も濃く、三件とも定期的に実施されている法定伝染病豚コレラ、豚丹毒の予防注射を受けいないことから豚コレラなどの可能性も否定できなーとして「自家治療が病気を広げた。自家治療を即刻やめ、獣医師の診断を受けること」などを呼びかけている。県農水部の二十二日午前の発表によると、最初の豚が死んだのは八月上旬。仲介人を

61.9.22 新報

子豚臓器で培養試験を行う

北部の豚舎での伝染病

性がある」とみており、一両日中に結果が判明する見通し。

伝染病が発生した三カ所の豚舎のうち、二カ所の豚舎では中、南部方面の同じ業者から子豚を貰い入れており、同保健衛生所では、そこが発生

源となっている可能性が強いとみて調査している。
同保健衛生所では「病名が分かっていないため詳しい処置法についていえないが、豚舎の消毒を徹底し、疑わしい症状が表れたら、すぐ通報するよう」呼び掛けている。

61.9.22 新報

トキソプラズマ症 など合併症の疑い

子豚を中心二十日までに三百七十六頭もの豚が死んだ原因を調べている県農水部畜産

【名護】県北部家畜保健衛生所にこれまでに入った連絡によると、名護市内など三カ所の豚舎で伝染病が発生、子豚を中心に合計約三百八十頭が死んでいることが分かった。同保健衛生所では死んだ子豚や伝染病に罹患している子豚を那覇市古波蔵にある県家畜衛生試験場に送り、病名の解明など急いでいる。

同保健衛生所のこれまでの調査によると病名の分かつてない伝染病は、抵抗力の弱い子豚を中心に流行、食欲不振からはじまり、発熱、せき、下痢の症状があり、時には便秘も伴う。そのまま放置すればやがてやせ衰え、歩き方が

沖縄本島北部で原因不明の伝染病で子豚など三百八十頭が死んだ問題で、県家畜衛生試験場（宇良宗輝場長）は二十日、名護市内から採取した子豚を解剖、主要臓器を摘出して培養試験を始めた。病名をつかむための措置で、同試験場では「ウイルス性の可能



病名不明の伝染病に侵されグッタリとなった豚＝名護市内豚舎

61.9.22 タイムス

北部地区で豚の疫病が集団発生したことと農水部畜産課は二十一日午前、記者会見し原因を発表した。それによると病名はトキソプラズマ症とパストレラの併発。法定

传染病ではない。疫病が発生したのは名護市と本部町の計三農家でいずれも南部の素豚業者から購入、そこが感染源とみられる。死亡した豚は合計三百七十六頭で、拡大はじ

していない。しかし、法定伝染病の豚コレラ、豚丹毒の疑いもあるとして県では周辺農家の予防注射の徹底や豚舎外への消毒を徹底するよう指導している。

疫病の発生がみられたのは八月上旬から。農家では一週間の潜伏期間内に子豚を移動させたり、自家治療で対処していたため市町村への報告が遅れ、被害が広がっていた。

疫病の発生がみられたのは八月上旬から。農家では一週間の潜伏期間内に子豚を移動させたり、自家治療で対処していたため市町村への報告が遅れ、被害が広がっていた。

疫病の発生がみられたのは八月上旬から。農家では一週間の潜伏期間内に子豚を移動させたり、自家治療で対処していたため市町村への報告が遅れ、被害が広がっていた。

「伝染病ではなかつた」

北部地区の
豚の大量死

61.9.23 タイムス

376頭が死に処分

通報遅れ、被害広がる

北部の養豚疫病

北部地区の養豚農家で疫病が集団発生したことについて県農水部畜産課は二十一日、その原因を発表した。それによると、二十日までに合計で三百七十六頭がトキソプラスマ症とパストレラの併発により死に、処理された。その後、被害は拡大していない。集団発生にまで発展したのは、農家段階での自家治療に頼り、家畜保健衛生所への連絡が遅れたため。県では、自家治療の禁止や豚舎内外の消毒を指導するとともに、法定

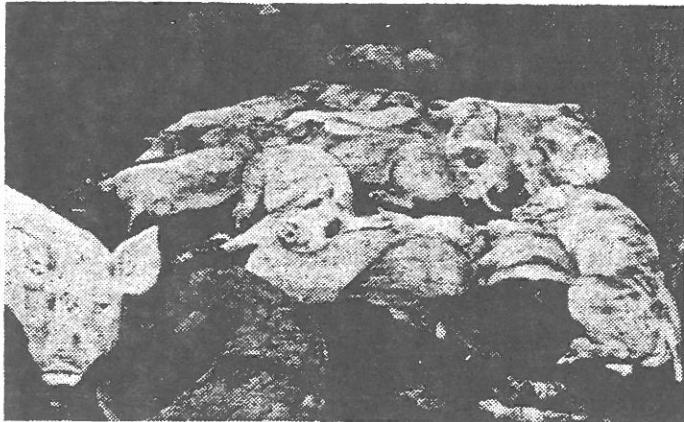
传染病である豚コレラ、豚丹毒（たん）の疑いもあるとして、調査を続けていた。疫病は八月上旬から、名護市の二農家、本部町の一農家で発生した。いずれも、南部の素豚業者から購入しており、そこが感染源だとみられる。導入した農家では、疫病の潜伏期間に舍内で豚を入れ替えたり、具合の悪い豚についても薬剤をえさに混ぜるなり、かかるべき機関に報告せよ。

「家畜伝染病予防法」に定められた法定伝染病の予防注射を受けておらず、その疑いも

残されている。県畜産課では、①自家治療をやめ、獣医による適切な治療を受ける②豚舎内外の消毒、周辺農家の予防注射の徹底③関係者以外の出入り禁止④当面の素豚の導入を避けるなどの指導を行い、まん延防止にあたっている。

異常大量死原因は豚コレラ

61.10.6 新報



グッタリとなった豚、原因是豚コレラと判明した＝名古市内

八月上旬ごろから名護と本部の豚舎で子豚を中心に豚が大量に死んだことで、県農水

名古市 本部町の養豚七戸家で豚の法定伝染病・豚コレラが発生、四日までに一千四百五十八頭が死し、六百七十一頭が死んだ。県内で豚コレラが発生するのは昭和四十年以来二十一年ぶり。事態を重視した県農水部では発生豚舎では防疫を実施した。周辺の養豚家に豚舎の消毒、予防注射などを呼びかけるとともに、六日付で発生豚舎からの豚の死体、豚コレラ病原体を広げる恐れのある物品の移出を禁止する告示を行つた。同部では「発病した豚は予防接種を受けてないものだけ。予防注射を受けていれば心配はない。人間にも影響はない」としている。伝染ルートはまだ分かつてない。

の21年ぶり

養豚農家に衝撃

豚コレラは、豚固有の病気で、感染後一週間で発病し、一度以上の高熱を出します。食欲がなくなる。歩行が困難になり、腰が柔らつき、あぐりなどの動作をして死んでしまう。最近は感染後、三ヶ月以上も生存する慢性型が増えているらしい。

今回、豚コレラの発生が確認されたのは名護市済井出、五戸、本部町辺名地二戸の計七戸の養豚農家。七戸で一万頭十四頭を飼育している。

性の病気の疑いもあるとして、七頭の検体を国の家畜衛生試験場へ送り、検査を依頼していただいた。この四日になつて、七頭のうち、六頭が慢性豚型コレラと診断された。豚コレラは法定伝染病で発病から一週間で百パーセント死んでしまう恐ろしい病気。ウイルス性の病気だけにいたたん病気しかかると治療はない。予防注

かり思っているのは予防注射を受けてない一千四百五十九頭。県では生産豚舍周辺で養豚農家へ防虫対策の緊急指導を行うとともに、①豚の死体、豚コレラを広げる恐れのある物品の移出禁止の今後のまん延を防止するため免疫接種を家畜防疫員立ち会いのもとと殺処分するなどの告示も行つた。

ス
8日水曜日 1版

にたたり目の豚コレラ
は花咲が禁止
樹木や疑わし
べて殺処分さ
ど法的に抵
力な指図がと
となろうが、
入ってからの状
態の改善に如
きの豚コレラの型

冲繩多千金子

1986年(昭和61年)10月8日 水曜日

1版 特製集 (14)



ので、県の判断も同じで、
らざるをれど、ほも大切
・早朝発見・早朝処置を取
せた手順がある。

を発表したが、上キン
プラスマとバッジレ よ
の合併症によるものと
判定を下した。しかし豚コ・ウイルスを有した豚肉を食
レラの疑いも払拭でない。べても人間には無害である
という喫味（あいまい）なことを見るために申し添え
発表で、疑心暗鬼をつのら ておきたい。トト。
せた。豚コレラとなると、（伊波榮雄・県經濟連盟
豚界の大元帅であり、號起 廣部郎長代理）
する問題もあり知れないも

北部・飼養豚の疫病

先月下旬に北部地区的養豚農家で集団発生した疫病は、その後の調べで法定伝染病の豚コレラだと分かった。県農水部畜産課が六日前に発表したもので、豚コレラの発生した農家に対しては即時に豚の移動禁止措置がとられる。感染した豚についてはすべて埋却処分される。集団発生にて至った理由は、これら農家が自家治療に頼り、公の機関への報告が遅れたため。また予防接種も受けていなかつた。県では、豚舎内の消毒を徹底して行うほか、周辺農家にも予防接種の徹底を呼びかける。

四日現在までに発病が確認されたのは合計一千四百五十頭。そのうちすでに六百七

十一頭が死んだ。
沖縄での豚コレラの発生は
昭和四十一年以来、二十一年
続いた。

射を徹底する③豚を集合させ
る催しものの開催を述べる一
などと呼びかける。

発生したのは名護市字済井
町字辺名地の養豚団地（二
戸）。先月中旬に疫病が発生
したが、当初はトキソアフズ
マ症とパスマツレフの併発が確
認されていた。しかしその後、
検体を国の畜畜衛生試験場に
送って検査した結果、十月四
日、豚コレラの併発と診断さ
れた。

度以上の高熱を出し、予防接
種を受けていないと確實に死
亡する。ウイルス性であるた
め、治療薬はない。

「不特定多數の農家から未接
種の豚が導入された」と畜産
課ではみでいるが、せんに導
入先を発明中である。

県は六日付で告示を出し、豚およびその死体、「コレラ」の疫病体を広げる恐れのある物品を区域外に出さない措置をとることもに発症豚を防疫員立ち合ひのもと埋却処分するの発生豚舎を中心に予防注

農部県
1458頭の発病を確認

大量死、豚コレラと判明

対策本部を設置
防圧に乗り出す

農水部

県内では二十一年ぶりに豚コレラが発生、名護市済井出と本部町辺名地の養豚団地で豚が大量に死んで北部の養豚農家を不安に陥れている。大量死の原因が豚コレラと判明したため、豚コレラ対策本部（本部長・大城喜光北部家畜保健衛生所長）が設置され、

六日午前北部家畜保健衛生所で家畜防疫委員、名護市、本部町の担当者を集めて緊急対策会議が開かれ、対策を協議。さつそく発生豚舎の予防接種、感染した豚の殺処分、周辺の豚舎の立ち入り検査に当たり防圧態勢に乗り出した。豚コレラは九月の中旬ごろから発生、四日までに名護市済井出の養豚団地では五千九百三十九頭の中から五百八十七頭が死んだ。本部町辺名地では四千三百八十五頭の中から八十五頭が死んだ。同家畜保健衛生所では、これまでに発生豚舎以外の豚舎で予防接種を実施しているが、六日からは発生豚舎で予防接種を行い五日間に症状の表れた豚を処分してこれ以上の発生を食い止めることにしている。

また、養豚団地の周囲二キロ以内の豚舎を立ち入り検査し他に発生がないかどうか調べることにしている。

感染拡大なさそう

北部の
豚コレラ



豚コレラ発生で豚舎の内外を消毒する養豚団地
=名護市内

名護市、本部町で豚が大量死した原因が法定伝染病・豚コレラと判明したこと、県は市町村、農協など関係機関は

六日、現地対策本部（本部長・大城喜光、農畜保健衛生所長）を設置し、発病した

豚舎の消毒を行うとともに、

半径二キロ内にある養豚農家の

立ち入り調査を開始した。豚コレラは死亡率の高い豚の伝染病だが、予防注射を受けてない

豚だった。いわば、予防注射

費（一頭当たり二百六十円）

を含む）を惜しんで、大損害

を招いたことになる。やるべきことをやらなかつた安上が

り経営のツケだといえる。

そのため県では予防接種の徹底

を呼びかけている。

豚コレラと判明するまでに

時間がかかったことについて

県農水部は「豚コレラは判定

の難しい病気。今回の場合は

トキソプラズマ症、パズレ

ラ症との合併症だったのが、

判定の難しさに輪をかけた

と弁明している。対策につい

ては、伝染病のトキソプラズ

マ症も死因の一因とわかつた

時点で、豚舎隔離などの処置

を取つており、対策が遅れた

ことはないとみていく。

感染肉、市場には出ず

県では、予防接種を受ければまず、り患することはない

ことから、これ以上、広がることはない」とみている。

豚は出品されず

コレラ

今帰仁村

第十一回北部

地区畜産共進

会（主催・北部振興会）は九

日午前九時から、今帰仁村畜

業セリ市場で開かれ、審査

表彰を行つた。今年の共進会

は名護市と本部町で豚コレラ

の発生があつたため豚は出品

されず、例年にならぬ寂しいも

のになつた。

県では、豚コレラ病原体を広げる恐れのある物の移動を禁止することもあり、患豚の埋蔵処分、豚舎消毒などともに伝染ルートの究明にも取り組んでいるが、いまのこと

豚コレラと判明するまでに時間がかかったことについて県農水部は「豚コレラは判定の難しい病気。今回の場合はトキソプラズマ症、パズレラ症との合併症だったのが、

団地外 感染なし?

周囲2キロで立ち入り検査

【名護】県内では二十一年ぶり、北部で集団発生した豚コレラは、疫豚農家を不安に陥れている。豚コレラが発生したのは名護市済井出と本町辺名地の疫豚圃地。現地対策本部（本部長・大城邦光北）は六日、部家畜衛生保健所長は六日、両町内地内の消母、予防接種、発病した豚の殺処分を進める一方、団地周辺の豚舎を立ち入り検査した。その結果、発病した豚は見つからず、「団地外への感染はくいとめられた」とみている。

名護市済井出の疫豚圃地の入り口には「家畜伝染病につき畜牛以外の山入りを禁止する」という立て看板が立ち、山のタイヤを消毒する消毒場が設けられている。その横でテントが張られ市職員が出入りを監視。ものものしい空気が漂った。『豚コ』が発生し

た豚舎では、家畜衛生保健所の職員が発病した豚を見つけて処分したり、予防接種に夜遅くまで追われた。対策本部は周地外の周囲二キロ以内で、しらみつぶしに豚舎の立ち入り検査を実施した。六日夕方までに検査を終わったが、発病した豚は一頭も見つからなかつた。『周地外への感染はない』とみていい。

しかし、法定伝染病の豚コレラの猪生した地域で豚の移動、出荷などは禁止されており、疫豚農家の打撃は大きい。

話の卵

61.10.7 新報

好き、しかも神経質な生き物ときつい。私たち現代人とそつくりでストレスから胃病も多いと聞く。

安心だ。

死んだり発病した豚は家畜防疫の立ち会いのもと、と殺処分など万全を期している。さらに猪生豚舎周辺の消

毒、予防注射にも乗り出す。

県で豚コレラが発生したのは二十一年わず忌(い)みきらわれている。「下劣で不潔なやつ」と称したり、聖書の中では全くの愚鈍扱いで「なんじら豚に真珠を投げ与うることなかれ」といった真合だ。

豚コレラは豚固有の急性伝染病。病原体はウイルスの一種で腸粘膜が炎生されて一年そちらで成体になる成長の速さも裏目に出で、かえって軽べつされる原因にもなっている「ふどく」豚より、やせたソクラテス」といふ。豚のぬれぎぬをさらに厚くした

食欲がなく歩行困難になり、泳ぐ

ことといえば必ず豚肉料理を出す。暑い夏を乗り切るには濃厚な味の代表である豚肉が好まれる。

本県の養豚頭数は三十一万九千頭(六月末現在)、県民のスマニナ頭で

レラの猪生した地域で豚の移動、出荷などは禁止されており、疫豚農家の打撃は大きい。

愚鈍扱いで「なんじら豚に真珠を投げ

与うることなかれ」といった真合だ。

歳時記にも豚の項は見当たらない。

ぶりという。

豚コレラは豚固有の急性伝染病。病

原体はウイルスの一種で腸粘膜が炎

生されて一年そちらで成体になる成

長の速さも裏目に出で、かえって軽べ

つされる原因にもなっている「ふどく

」豚より、やせたソクラテス」とい

ふ。豚のぬれぎぬをさらに厚くした

食欲がなく歩行困難になり、泳ぐ

ことといえば必ず豚肉料理を出す。暑

い夏を乗り切るには濃厚な味の代表で

ある豚肉が好まれる。

本県の養豚頭数は三十一万九千

頭(六月末現在)、県民のスマニナ頭で

ある豚肉だけに、感染ルートを解明す

ると同時に、これ以上豚コレラが広が

らないよう関係機関の早急な対策を希

望する。



○…「なん
で農業にだ
け、大問題が
集中するのか
ねえ。ことし
は厄年かな
あ」とボヤいてい
るのは、
久手堅農
慶水部長
『写真』
思いおこ
せばキビ
の低ブリックスに始まり、
パイン、干ばつ、そして最
近では豚コレラと、頭を抱
える問題が続々と発生。さ
かがの部長も「ウガソ不足
かな」とゲンナリした様
子。それでも、体育の日の



十日は休日返上で豚師問題
で対策会議。「雨降って地固
まるという言葉もある。今
に尽力なさいた方。本当に
後行政に役立つよう」と
ばかりに、職員をしつた激励
していった。

○…戦後の沖縄政治史に
大きな足跡を残した故安里
久手堅農
慶水部長

一礼。「安里先生は沖縄政界
の重鎮として祖国復帰実現
に尽力なさいた方。本当に
残念でならない」と哀悼の
意を表した。波乱の戦後史
を生き抜いた、政治家・安
里氏、選族とともに安里氏
を振り返って思い出を語る

やく年かウガソ不足か

横千代氏へ國から從四位、
勳二等瑞宝章が贈られた。

西銘知事は、同じ時代を共
有した政治家として胸に去
来するものが多々ある様子

西銘知事は、「金城睦氏ではどうか」と水を向けると、「当初の段階で検討した結果、弁護士

が「金城睦氏ではどうか」と水を向けると、「当初の段階で検討した結果、弁護士

が「金城睦氏ではどうか」と水を向けると、「当初の段階で検討した結果、弁護士

が「金城睦氏ではどうか」と水を向けると、「当初の段階で検討した結果、弁護士

が「金城睦氏ではどうか」と水を向けると、「当初の段階で検討した結果、弁護士



○…「繁殖豚、子豚をコンピューターで管理し、予防接種を徹底」。十九日午後、豚コレラ終息宣言の発表を行った久手堅農
慶水部長は「二度と同じうつた反省はやりたくない。今回の豚コレラは農家が予防接種代三百六十円を惜しんだのが原因。もれなく予防接種を受けさせるため豚の数、接種時期などをコンピューターにインプットし、管理体制を強化したい」と、農技協を組織化、先端技術の導入に積極的な久手堅部長らしい妙案(?)。実現に向けての検討を指示したというが、実現は果たしていつ。二十一年間発生なしの油断、虚をつかれた豚コレラ騒動、教訓をどう生かすか。こうと期待か。

通報、初動対応盛る

県農水部 豚コレラ緊急対策要領

県農水部畜産課は八日、県家畜衛生試験場で関係者を集めて会議を開き、豚コレラ発生時の緊急対策要領を作成した。北部地区での集団発生は沈静化したが、今後、豚コレラが県内に常在化しないよう発生時の初動対応を再確認したもの。今回、集団発生にて至った理由として、ここ二十二年間も豚コレラの発生がない、農家、行政とも対応が遅れた感は否めない。このため要領では、家畜衛生試験場や獣医監視への速やかな通報など発生時の初動対応を具体的に明示したほか、試験場でも最終判断できる体制をとっている。

畜産課によると、発病した一千四百五十八頭は、皆示に基づき七日までにすべて即刻

スツレラ、トキソプラズマ症の併発で農家や行政の対応が遅れた。八月上旬に初発があったが、県への報告は九月九日、さらに豚コレラと確定したのが、県へは十月四日と、発生から三ヶ月もたち、被害を拡大させた。県家畜衛生試験場に検体が送り、症状が類似しているば

農家の通報が県内での豚コレラの発生は昭和四十年以来二十一年ぶり。豚コレラに陥して神戸は消滅地域だとみられていた上に、症状が類似しているば



豚コレラ発生時の緊急対策を話し合った会議=家畜衛生試験場

とまつておらず、予防注射率は約七割くらいだといふ。豚

持ち込まれたのは九月十九日。二十一日にはトキソプラズマ原虫とバストレラ菌が認められた、と発表。しかし、試験場ではこれを機に豚コレラを確定できる機能を整えたといふ。

感染ルートについては「県

たもの。疑似症状が確認された場合、地区的家畜保健衛生所は直ちに発生豚の注射、隔離を行い、さらに家畜衛生試験場で真性だと確認された場合は、畜産防疫法に基づいた措置がとられる。会議では、適切な機関へ早めに通報することが強調された。

豚コレラ 下火に

【名越】豚コレラが発生した北部では、七日も早い段階で予防接種など現場の対応に追われた。これまでの調査から他の地域への飛び火はない、鎮静化のきさしを見せた。同衛生所では、発生を確認した先月二十五、二十六の両日、猪出と迎配地、さらには周辺養豚家の豚に予防接種を施した。予防接種は三日目から効力を發揮するといい、これまでの経緯から、すでに発病が確認されている一千四百五十八頭のほかはわずかにしおったのでは」と指摘している。

大きな特徴は、「豚コレラの疑いもある」と、自家治療に頼り、通報が遅い(試験場)としている。県畜産課によれば、予防接種は義務ではなく指導にとどまっている。